

グローバル全生物ゲノム株式ファンド (1年決算型)

運用報告書 (全体版)

第5期 (決算日 2023年12月7日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。
「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」は、2023年12月7日に第5期の決算を行ないましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/内外/株式	
信託期間	2019年1月16日から原則無期限です。	
運用方針	主として、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要運用対象	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)	「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所上場株式(預託証券を含みます。)を主要投資対象とします。
組入制限	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)	株式への実質投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

<644552>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号: 0120-25-1404
午前9時~午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額				FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TR		株 式 組 入 比 率	純 資 産 額
	(分配落)	税 分	込 配	み 期	中 騰	中 落		
(設定日)	円		円		%		%	百万円
2019年1月16日	10,000		—		—	100.00	—	5,721
1期(2019年12月9日)	11,045		0		10.5	115.04	98.8	121,171
2期(2020年12月7日)	20,354		0		84.3	140.96	97.9	95,986
3期(2021年12月7日)	15,813		0		△22.3	162.24	98.4	57,593
4期(2022年12月7日)	10,349		0		△34.6	166.89	98.5	32,629
5期(2023年12月7日)	10,145		0		△2.0	166.69	98.5	28,761

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Indexは、ファクトセット社が開発した世界のバイオ医薬品の開発、研究、製造、ソフトウェア技術等を手掛ける企業の株式で構成された指数です。なお、設定時を100として2023年12月7日現在知りえた情報に基づいて指数化しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TR (参考指数)		株 組 入 比 率
	円	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	
(期 首) 2022年12月7日	10,349	—	166.89	—	98.5
12月末	9,239	△10.7	161.53	△3.2	98.5
2023年1月末	10,287	△0.6	164.86	△1.2	98.8
2月末	10,044	△2.9	163.33	△2.1	98.9
3月末	9,485	△8.3	159.66	△4.3	98.5
4月末	9,510	△8.1	161.79	△3.1	98.8
5月末	10,628	2.7	165.22	△1.0	98.3
6月末	11,387	10.0	172.74	3.5	98.3
7月末	12,126	17.2	172.05	3.1	98.3
8月末	11,079	7.1	177.30	6.2	98.4
9月末	9,975	△3.6	169.63	1.6	98.7
10月末	8,296	△19.8	154.36	△7.5	98.4
11月末	10,030	△3.1	161.68	△3.1	98.5
(期 末) 2023年12月7日	10,145	△2.0	166.69	△0.1	98.5

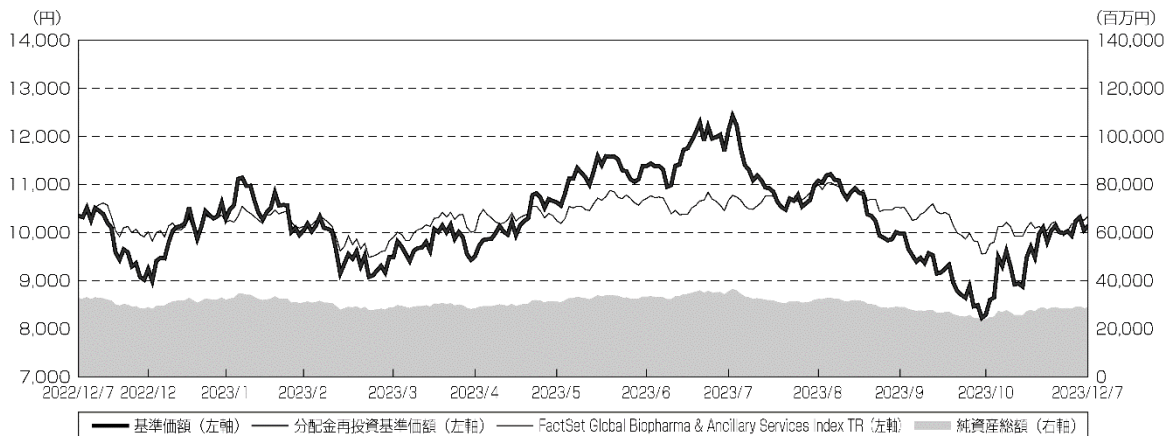
(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

（2022年12月8日～2023年12月7日）

期中の基準価額等の推移



期首：10,349円
 期末：10,145円（既払分配金（税込み）：0円）
 騰落率：△2.0%（分配金再投資ベース）

- （注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- （注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- （注）分配金再投資基準価額およびFactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRは、期首（2022年12月7日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- （注）上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- （注）FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRは当ファンドの参考指数です。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・中国のゼロコロナ政策撤廃や米国の利上げペースの軟化期待などから主要株式市場が急伸したこと。
- ・米国の債務上限問題の懸念後退や中国の景気対策期待の高まりなどを背景に、市場が堅調に上昇したこと。
- ・米国の利上げ終了観測などを受けて世界的に金利が急低下したことや、米中首脳会談などを受けて、市場が2023年の年初来の高値圏まで反発したこと。

- ・米国の利上げ長期化観測や世界的な金利上昇などを背景にアメリカドルや主要通貨に対して円安が進み、円ベース・リターンの押し上げ効果となったこと。

<値下がり要因>

- ・インフレ軟化期待の後退や欧米の金融不安の拡大などから世界的な株安となったこと。
- ・米国の金融引き締め長期化観測や、中国の景気懸念と不動産信用問題の再燃、中東情勢の混乱などが悪材料となって世界的な株安となったこと。

投資環境

（株式市況）

世界の主要株式市場は、期間の初めと比べて大きく上昇し、また円安による押し上げ効果で円ベース・リターンでは大幅な上昇となりました。

期間の初めから2023年2月上旬にかけては、主要中央銀行の利上げ長期化観測や中国における新型コロナウイルスの感染急拡大などから主要株式市場は一時下落したものの、中国のゼロコロナ政策転換を受けた経済再開期待や、2022年12月の米国消費者物価指数（CPI）がインフレ鈍化を示唆して米国の利上げペースの軟化期待が高まるなかでテクノロジー株などのグロース株への買い戻しが続き、市場は大幅に上昇しました。

しかしその後、予想外の堅調ぶりを示した2023年1月の米国雇用統計や欧米のインフレ率を受けてインフレ軟化期待が後退し、金利上昇や米中対立懸念なども悪材料となって市場は反落しました。米国の地方銀行や一部の欧州の銀行から端を発した金融システム危機の懸念も悪材料に、3月中旬まで世界的な株安となりました。その後、各国当局の迅速な対応を受けて金融不安が後退すると、長期金利が低下するなかで買い戻されたテクノロジー株などを中心に反発して市場は4月にかけて下落分を取り戻す上昇となりました。

7月末にかけては、米国の地方銀行の信用問題再燃や景気減速懸念などをこなしつつ、米国の債務上限問題の懸念後退や、6月のCPIがディスインフレを示したこと、中国の景気対策期待などから良好なセンチメント（心理）が続き、主要株式市場は堅調に上昇して年初来高値を追いました。

8月から10月にかけては、米国の金融引き締めの長期化観測が高まるなかで米国長期金利が急伸し、中国の景気減速懸念や不動産信用問題の再燃、米国政府閉鎖懸念、中東情勢の混乱などの悪材料が重なり、世界的な株安基調が続きました。

11月から期間末にかけては、米国連邦準備制度理事会（FRB）による2会合連続の利上げ見送りを受けて米国の金融引き締めの終了観測が台頭し、世界的に金利が急低下したことや、米中首脳会談を受けた地政学的リスクの後退などからセンチメントが好転し、主要株式市場はグロース株を中心に年初来の高値圏まで急反発して期間末を迎えました。

為替市場では、日銀の金融緩和策の修正観測や米国の利上げペースの軟化期待などから対アメリカドルや主要通貨で円高が進む局面がありつつも、期間を通じて米国の利上げ長期化観測などを織り込んで円安基調が続き、円ベース・リターンは大きく押し上げられる格好となりました。

（為替市況）

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。



当ファンドのポートフォリオ

（当ファンド）

当ファンドは、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

（グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド）

アクティブ運用を行なう当ファンドでは、マクロ経済の状況を引き続き見通してポジションを適宜縮小・集約していく方針です。通常、当ファンドでは市場が大幅に下落する局面でポートフォリオを集約し、市場が拡大する局面で銘柄数を増加させます。

期間中の主な投資行動は、以下の通りです。

フェイト・セラピューティクス（医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）については、製品および事業の優位性、ならびに実行力のスコアを引き下げ、保有株式を全売却しました。マルチプレックス編集にCRISPR/Cas-9を使用することは、二本鎖DNA切断を引き起こすことを通じて転座を引き起こす可能性があり、当ファンドでは、より優れた手法が存在すると考えています。

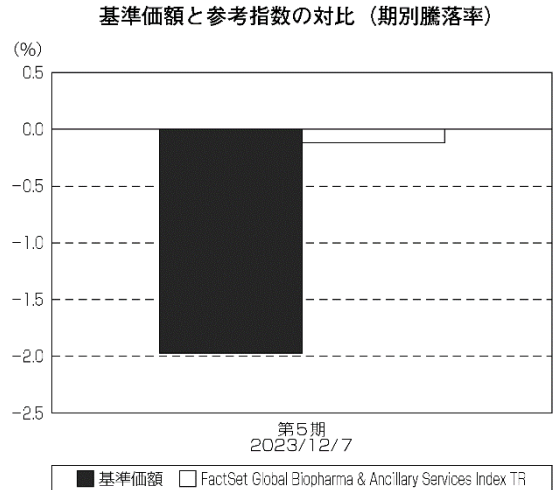
アイオバンス・バイオセラピューティクス（医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）については、細胞治療市場における開発能力や競争力に対する確信度が大きく低下したため全売却し、より良好なリターン、および社会的・環境的により有意義なインパクトを世界的にもたらすことが期待できる銘柄を複数購入しました。

コデクス（医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）も全売却し、確信度がより高くなったQuantum-Si（医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）などの追加購入代金に充てました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRIは当ファンドの参考指数です。

分配金

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第5期
	2022年12月8日～ 2023年12月7日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	8,271

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。

（グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド）

技術革新の進歩や費用曲線の低下に関連したデフレ圧力が今後3～5年間に於いてゲノム企業・ゲノム関連企業の売上数量増加をもたらし、生産性、収益性を押し上げることになるかと予想しています。より重要なこととして、DNAシーケンシング（DNA（＝核酸）を構成する塩基の配列を決定すること）やゲノム編集などに関連する技術的進歩によって科学的発見のペースが加速することで、病気の症状だけを抑えるという治療ではなく、患者一人ひとりの病気を根治する個別化医療の時代の到来が予見されます。細胞療法の革新と他家由来細胞の活用が組み合わせることで、細胞療法の市場規模がさらに1,500億アメリカドル拡大する可能性があり、癌の遺伝子療法の総市場規模は約20倍に増加し、2,600億アメリカドルを超えると期待されます。そうした治療法のブレークスルー（大躍進）を受けて、シーケンシングに対する需要の拡大が加速すると思われる、シーケンシングは通常の医療の一部になると考えられます。また、これらの技術はヘルスケアの分野を超えて拡大してきています。例えば、2025年までCRISPR技術（ゲノム編集技術の1つ）は農業畜産水産物市場を推定でおよそ1,700億アメリカドル拡大させる可能性があり、世界の人口増加が予想されるなかで食料供給を支えるとみられています。人為的要因による土壌汚染や海洋汚染をゲノム技術の活用によって低減させ、それによって持続可能な作物の栽培や水産物の養殖が可能になるとみられます。当ファンドでは、DNAシーケンシングやゲノム編集、AI技術などの融合を活かし、世界経済においてあらゆる産業に影響を与える可能性がある企業を選好していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

（2022年12月8日～2023年12月7日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	184	1.804	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(95)	(0.935)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(84)	(0.825)	運用報告書など各種書類の送付、口内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	(4)	(0.044)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	8	0.080	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(8)	(0.080)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	1	0.005	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	(1)	(0.005)	
(d) そ の 他 費 用	5	0.044	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(3)	(0.026)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 等 ）	(1)	(0.014)	印刷費用等は、法定開示資料の印刷に係る費用など
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	198	1.933	
期中の平均基準価額は、10,173円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

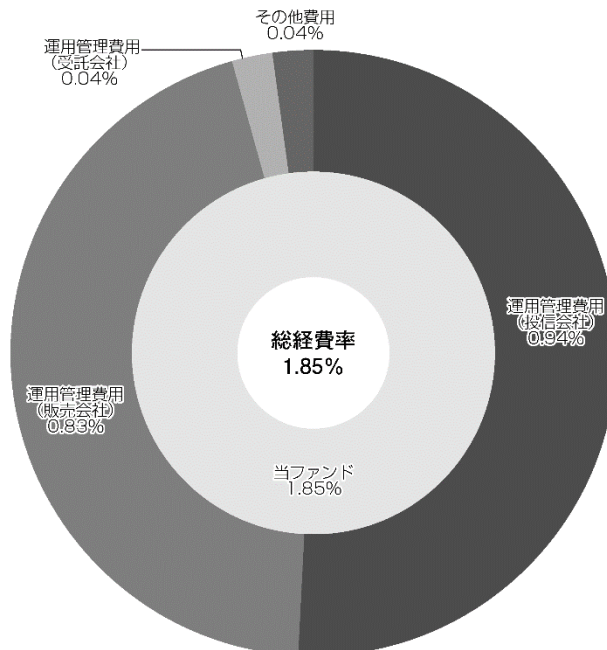
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.85%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認いただけますが、期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2022年12月8日～2023年12月7日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	千口 254,373	千円 309,071	千口 3,591,900	千円 3,962,446

○株式売買比率

(2022年12月8日～2023年12月7日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	24,389,366千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	42,069,134千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.57	

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 外国の取引金額は、各月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

○利害関係人との取引状況等

(2022年12月8日～2023年12月7日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2022年12月8日～2023年12月7日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2022年12月8日～2023年12月7日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2023年12月7日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	28,912,037	25,574,510	28,500,234

(注) 親投資信託の2023年12月7日現在の受益権総口数は、37,598,506千口です。

○投資信託財産の構成

(2023年12月7日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	28,500,234	97.8
コール・ローン等、その他	653,793	2.2
投資信託財産総額	29,154,027	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) グローバル全生物ゲノム株式マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（41,992,600千円）の投資信託財産総額（42,177,338千円）に対する比率は99.6%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1アメリカドル=147.17円、1ユーロ=158.49円、1イギリスポンド=184.86円、1スイスフラン=168.21円、1オーストラリアドル=96.46円、1香港ドル=18.84円、1韓国ウォン=0.1118円、1香港・オフショア人民元=20.5169円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2023年12月7日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	29,154,027,647
コール・ローン等	554,705,307
グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド(評価額)	28,500,234,682
未収入金	99,087,658
(B) 負債	392,432,506
未払解約金	112,078,385
未払信託報酬	275,580,972
未払利息	86
その他未払費用	4,773,063
(C) 純資産総額(A－B)	28,761,595,141
元本	28,351,603,956
次期繰越損益金	409,991,185
(D) 受益権総口数	28,351,603,956口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,145円

(注) 当ファンドの期首元本額は31,528,201,735円、期中追加設定元本額は3,034,678,761円、期中一部解約元本額は6,211,276,540円です。

(注) 1口当たり純資産額は1.0145円です。

○損益の状況（2022年12月8日～2023年12月7日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 146,417
受取利息	916
支払利息	△ 147,333
(B) 有価証券売買損益	△ 147,471,256
売買益	249,706,385
売買損	△ 397,177,641
(C) 信託報酬等	△ 555,905,104
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 703,522,777
(E) 前期繰越損益金	△12,752,851,019
(F) 追加信託差損益金	13,866,364,981
(配当等相当額)	(11,600,591,547)
(売買損益相当額)	(2,265,773,434)
(G) 計(D+E+F)	409,991,185
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	409,991,185
追加信託差損益金	13,866,364,981
(配当等相当額)	(11,600,897,371)
(売買損益相当額)	(2,265,467,610)
分配準備積立金	11,851,363,826
繰越損益金	△25,307,737,622

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 親投資信託の信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要した費用のうち、2022年12月8日～2023年12月7日の期間に当ファンドが負担した費用は181,249,481円です。

(注) 分配金の計算過程(2022年12月8日～2023年12月7日)は以下の通りです。

項 目	2022年12月8日～ 2023年12月7日
a. 配当等収益(経費控除後)	0円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	11,600,897,371円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	11,851,363,826円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	23,452,261,197円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	8,271円
g. 分配金	0円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金（税込み）	0円
-----------------	----

○お知らせ

約款変更について

2022年12月8日から2023年12月7日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

- 当ファンドについて、その商品性、基準価額水準および純資産規模等を勘案し、新NISA制度における成長投資枠の要件に適合させるため、信託期間を無期限とするよう、2023年9月8日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（第4条、第57条）
- 当ファンドについて、新NISA制度における成長投資枠の要件に適合させるため、当該ファンドにて行なうデリバティブ取引および外国為替予約取引の利用目的を明確化するべく、2023年9月8日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（付表、第21条、第22条、第23条、第28条）

当ファンドの主要投資対象先の直近の運用状況について、法令および諸規則に基づき、次ページ以降にご報告申し上げます。

グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド

運用報告書

第5期（決算日 2023年12月7日）
（2022年12月8日～2023年12月7日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2019年1月16日から原則無期限です。
運用方針	主として、日本を含む世界の金融商品取引所上場株式に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	日本を含む世界の金融商品取引所上場株式（預託証券を含みます。）を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

ファンド概要

主として、日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されている、ゲノム技術に関連するビジネスを行なう企業およびゲノム技術の恩恵を受ける企業の株式に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

株式の銘柄選定にあたっては、各企業の成長性、収益性、財務健全性、流動性などを勘案して行ないます。

株式の組入比率は、高位を維持することを基本とします。

外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジを行ないません。

ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

日興アセットマネジメント

<639028>

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TR		株組入比率	純資産額
	期騰落	中率	(参考指数)	期騰落		
(設定日)	円	%			%	百万円
2019年1月16日	10,000	—	100.00	—	—	5,635
1期(2019年12月9日)	11,311	13.1	115.04	15.0	99.7	120,079
2期(2020年12月7日)	21,377	89.0	140.96	22.5	99.3	117,320
3期(2021年12月7日)	16,836	△21.2	162.24	15.1	99.3	83,184
4期(2022年12月7日)	11,167	△33.7	166.89	2.9	99.6	45,741
5期(2023年12月7日)	11,144	△0.2	166.69	△0.1	99.4	41,899

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Indexは、ファクトセット社が開発した世界のバイオ医薬品の開発、研究、製造、ソフトウェア技術等を手掛ける企業の株式で構成された指数です。なお、設定時を100として2023年12月7日現在知りえた情報に基づいて指数化しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TR (参考指数)		株 組 入 比 式 率
		騰 落 率		騰 落 率	
(期 首) 2022年12月7日	円 11,167	% -		166.89	% 99.6
12月末	9,970	△10.7	161.53	△3.2	99.6
2023年1月末	11,129	△0.3	164.86	△1.2	99.6
2月末	10,881	△2.6	163.33	△2.1	99.7
3月末	10,285	△7.9	159.66	△4.3	99.4
4月末	10,328	△7.5	161.79	△3.1	99.9
5月末	11,573	3.6	165.22	△1.0	99.1
6月末	12,429	11.3	172.74	3.5	99.7
7月末	13,261	18.8	172.05	3.1	99.5
8月末	12,120	8.5	177.30	6.2	99.6
9月末	10,919	△2.2	169.63	1.6	99.6
10月末	9,078	△18.7	154.36	△7.5	99.5
11月末	11,014	△1.4	161.68	△3.1	99.5
(期 末) 2023年12月7日	11,144	△0.2	166.69	△0.1	99.4

(注) 騰落率は期首比です。

○運用経過

(2022年12月8日～2023年12月7日)

基準価額の推移

期間の初め11,167円の基準価額は、期間末に11,144円となり、騰落率は△0.2%となりました。

基準価額の変動要因

期間中、基準価額に影響した主な要因は以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・中国のゼロコロナ政策撤廃や米国の利上げペースの軟化期待などから主要株式市場が急伸したこと。
- ・米国の債務上限問題の懸念後退や中国の景気対策期待の高まりなどを背景に、市場が堅調に上昇したこと。
- ・米国の利上げ終了観測などを受けて世界的に金利が急低下したことや、米中首脳会談などを受けて、市場が2023年の年初来の高値圏まで反発したこと。
- ・米国の利上げ長期化観測や世界的な金利上昇などを背景にアメリカドルや主要通貨に対して円安が進み、円ベース・リターンの押し上げ効果となったこと。

<値下がり要因>

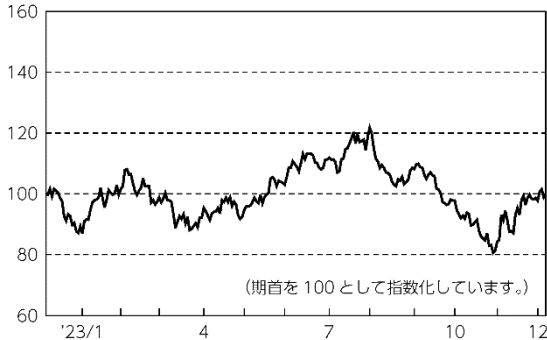
- ・インフレ軟化期待の後退や欧米の金融不安の拡大などから世界的な株安となったこと。
- ・米国の金融引き締め長期化観測や、中国の景気懸念と不動産信用問題の再燃、中東情勢の混乱などが悪材料となって世界的な株安となったこと。

基準価額の推移

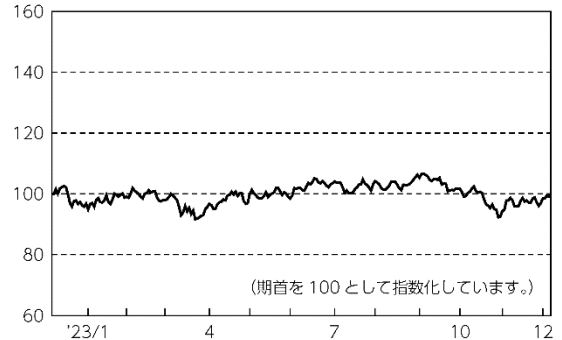


期首	期中高値	期中安値	期末
2022/12/07	2023/08/01	2023/10/30	2023/12/07
11,167円	13,596円	8,998円	11,144円

基準価額（指数化）の推移



FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TR（指数化）の推移



（株式市況）

世界の主要株式市場は、期間の初めと比べて大きく上昇し、また円安による押し上げ効果で円ベース・リターンでは大幅な上昇となりました。

期間の初めから2023年2月上旬にかけては、主要中央銀行の利上げ長期化観測や中国における新型コロナウイルスの感染急拡大などから主要株式市場は一時下落したものの、中国のゼロコロナ政策転換を受けた経済再開期待や、2022年12月の米国消費者物価指数（CPI）がインフレ鈍化を示唆して米国の利上げペースの軟化期待が高まるなかでテクノロジー株などのグロース株への買い戻しが続き、市場は大幅に上昇しました。

しかしその後、予想外の堅調ぶりを示した2023年1月の米国雇用統計や欧米のインフレ率を受けてインフレ軟化期待が後退し、金利上昇や米中対立懸念なども悪材料となって市場は反落しました。米国の地方銀行や一部の欧州の銀行から端を発した金融システム危機の懸念も悪材料に、3月中旬まで世界的な株安となりました。その後、各国当局の迅速な対応を受けて金融不安が後退すると、長期金利が低下するなかで買い戻されたテクノロジー株などを中心に反発して市場は4月にかけて下落分を取り戻す上昇となりました。

7月末にかけては、米国の中央銀行の信用問題再燃や景気減速懸念などをこなしつつ、米国の債務上限問題の懸念後退や、6月のCPIがデシインフレを示したこと、中国の景気対策期待などから良好なセンチメント（心理）が続き、主要株式市場は堅調に上昇して年初来高値を追いました。

8月から10月にかけては、米国の金融引き締め長期化観測が高まるなかで米国長期金利が急伸し、中国の景気減速懸念や不動産信用問題の再燃、米国政府閉鎖懸念、中東情勢の混乱などの悪材料が重なり、世界的な株安基調が続きました。

11月から期間末にかけては、米国連邦準備制度理事会（FRB）による2会合連続の利上げ見送りを受けて米国の金融引き締めの終了観測が台頭し、世界的に金利が急低下したことや、米中首脳会談を受けた地政学的リスクの後退などからセンチメントが好転し、主要株式市場はグロース株を中心に年初来の高値圏まで急反発して期間末を迎えました。

為替市場では、日銀の金融緩和策の修正観測や米国の利上げペースの軟化期待などから対アメリカドルや主要通貨で円高が進む局面がありつつも、期間を通じて米国の利上げ長期化観測などを織り込んで円安基調が続き、円ベース・リターンは大きく押し上げられる格好となりました。

(為替市況)

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。



ポートフォリオ

アクティブ運用を行なう当ファンドでは、マクロ経済の状況を引き続き見通してポジションを適宜縮小・集約していく方針です。通常、当ファンドでは市場が大幅に下落する局面でポートフォリオを集約し、市場が拡大する局面で銘柄数を増加させます。

期間中の主な投資行動は、以下の通りです。

フェイト・セラピューティクス（医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）については、製品および事業の優位性、ならびに実行力のスコアを引き下げ、保有株式を全売却しました。マルチプレックス編集にCRISPR/Cas-9を使用することは、二本鎖DNA切断を引き起こすことを通じて転座を引き起こす可能性があり、当ファンドでは、より優れた手法が存在すると考えています。

アイオバンス・バイオセラピューティクス（医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）については、細胞治療市場における開発能力や競争力に対する確信度が大きく低下したため全売却し、より良好なリターン、および社会的・環境的により有意義なインパクトを世界的にもたらすことが期待できる銘柄を複数購入しました。

コデクシス（医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）も全売却し、確信度がより高くなったQuantum-Si（医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）などの追加購入代金に充てました。

○今後の運用方針

技術革新の進歩や費用曲線の低下に関連したデフレ圧力が今後3～5年間に於いてゲノム企業・ゲノム関連企業の売上数量増加をもたらす、生産性、収益性を押し上げることになるかと予想しています。より重要なこととして、DNAシーケンシング（DNA（＝核酸）を構成する塩基の配列を決定すること）やゲノム編集などに関連する技術的進歩によって科学的発見のペースが加速することで、病気の症状だけを抑えるという治療ではなく、患者一人ひとりの病気を根治する個別化医療の時代の到来が予見されます。細胞療法の革新と他家由来細胞の活用が組み合わせることで、細胞療法の市場規模がさらに1,500億アメリカドル拡大する可能性があり、癌の遺伝子療法の総市場規模は約20倍に増加し、2,600億アメリカドルを超えると期待されます。そうした治療法のブレイクスルー（大躍進）を受けて、シーケンシングに対する需要の拡大が加速すると思われ、シーケンシングは通常の医療の一部になると考えられます。また、これらの技術はヘルスケアの分野を超えて拡大してきています。例えば、2025年までCRISPR技術（ゲノム編集技術の1つ）は農業畜産水産物市場を推定でおよそ1,700億アメリカドル拡大させる可能性があり、世界の人口増加が予想されるなかで食料供給を支えるとみられています。人為的要因による土壌汚染や海洋汚染をゲノム技術の活用によって低減させ、それによって持続可能な作物の栽培や水産物の養殖が可能になるとみられます。当ファンドでは、DNAシーケンシングやゲノム編集、AI技術などの融合を活かし、世界経済においてあらゆる産業に影響を与える可能性がある企業を選好していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年12月8日～2023年12月7日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	9 (9)	0.081 (0.081)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	1 (1)	0.005 (0.005)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	3 (3) (0)	0.027 (0.027) (0.000)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	13	0.113	
期中の平均基準価額は、11,082円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2022年12月8日～2023年12月7日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外 国	アメリカ	百株 98,168	千アメリカドル 71,205	百株 69,588	千アメリカドル 91,751
	イギリス	6,378	千イギリスポンド 1,768	2,592	千イギリスポンド 1,030
	スイス	65 (311)	千スイスフラン 691 (693)	496 (155)	千スイスフラン 3,642 (700)
	韓国	11	千韓国ウォン 34,621	92	千韓国ウォン 487,033
	中国オフショア	—	千香港・オフショア人民元 —	14,223	千香港・オフショア人民元 20,916

(注) 金額は受け渡し代金。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2022年12月8日～2023年12月7日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	24,389,366千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	42,069,134千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.57

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 外国の取引金額は、各月末(決算日の属する月については決算日)の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

○利害関係人との取引状況等

(2022年12月8日～2023年12月7日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2022年12月8日～2023年12月7日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○組入資産の明細

(2023年12月7日現在)

外国株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末		業 種 等
	株 数	株 数	評 価 額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	百株	千アメリカドル	千円	
BUTTERFLY NETWORK INC	3,969	9,231	895	131,771	ヘルスケア機器・サービス
CORTEVA INC	1,674	1,510	6,669	981,572	素材
GINKGO BIOWORKS HOLDINGS INC	41,392	58,206	7,566	1,113,617	素材
INVITAE CORP	13,281	11,692	694	102,141	ヘルスケア機器・サービス
PFIZER INC	686	624	1,798	264,686	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
TELADOC HEALTH INC	2,924	2,618	4,963	730,528	ヘルスケア機器・サービス
UIPATH INC - CLASS A	3,963	2,507	5,858	862,209	ソフトウェア・サービス
VEEVA SYSTEMS INC-CLASS-A	467	439	7,844	1,154,452	ヘルスケア機器・サービス
10X GENOMICS INC-CLASS A	1,630	1,701	7,859	1,156,682	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
908 DEVICES INC	5,757	6,060	4,472	658,220	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
ACCOLADE INC	8,097	9,453	8,630	1,270,198	ヘルスケア機器・サービス
ADAPTIVE BIOTECHNOLOGIES	14,762	21,823	10,082	1,483,856	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
ARCTURUS THERAPEUTICS HOLDIN	1,918	1,710	4,008	589,978	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
BEAM THERAPEUTICS INC	2,943	3,740	10,722	1,578,075	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
PHENOMEX INC	3,810	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
BURNING ROCK BIOTECH LTD-ADR	7,306	6,670	514	75,690	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
CAREDX INC	8,893	8,708	8,395	1,235,545	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
CERUS CORP	11,199	13,174	2,134	314,103	ヘルスケア機器・サービス
CODEXIS INC	5,677	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
COMPASS PATHWAYS PLC	3,312	3,842	2,128	313,286	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
CRISPR THERAPEUTICS AG	3,643	3,289	23,404	3,444,449	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
EXACT SCIENCES CORP	5,125	2,911	18,972	2,792,231	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
FATE THERAPEUTICS INC	4,456	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
GUARDANT HEALTH INC	813	987	2,540	373,944	ヘルスケア機器・サービス
INCYTE CORP	1,019	662	3,670	540,117	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
INTELLIA THERAPEUTICS INC	3,764	3,940	11,766	1,731,620	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
IOVANCE BIOTHERAPEUTICS INC	3,148	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
IONIS PHARMACEUTICALS INC	3,465	2,623	13,099	1,927,884	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
MODERNA INC	245	595	4,797	706,091	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
NVIDIA CORP	272	93	4,257	626,541	半導体・半導体製造装置
ORGANOVO HOLDINGS INC	833	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
PACIFIC BIOSCIENCES OF CALIF	10,894	9,534	8,104	1,192,759	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
PERSONALIS INC	9,239	10,836	1,603	236,039	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
PRIME MEDICINE INC	1,755	5,070	4,254	626,073	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
QUANTUM-SI INC	12,315	23,596	3,704	545,207	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
REGENERON PHARMACEUTICALS	108	68	5,759	847,574	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
RECURSION PHARMACEUTICALS-A	4,719	15,234	11,303	1,663,589	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
REPAIR THERAPEUTICS INC	1,807	3,260	1,851	272,520	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
SCHRODINGER INC	3,430	1,250	4,010	590,250	ヘルスケア機器・サービス
SOMALOGIC INC	11,639	17,456	4,730	696,209	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
SURFACE ONCOLOGY INC	10,822	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
TWIST BIOSCIENCE CORP	3,055	3,564	9,267	1,363,950	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
VERTEX PHARMACEUTICALS INC	202	181	6,428	946,012	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
VERACYTE INC	4,964	4,363	11,209	1,649,690	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス

銘柄	株数	当期		業種等
		株数	評価額	
(アメリカ)	百株	百株	千円	
VERVE THERAPEUTICS INC	3,943	4,696	千アメリカドル	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	249,354 45	277,934 39	外貨建金額 邦貨換算金額 255,844 37,652,586 千円 <89.9%>
(イギリス)			千イギリスポンド	
GENUS PLC	1,088	976	1,966	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
OXFORD NANOPORE TECHNOLOGIES	12,969	16,868	3,189	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	14,058 2	17,844 2	5,156 953,211 — <2.3%>
(スイス)			千スイスフラン	
LONZA GROUP AG-REG	47	42	1,433	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
NOVARTIS AG-REG	912	641	5,447	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	959 2	684 2	6,880 1,157,396 — <2.8%>
(韓国)			千韓国ウォン	
TOOLGEN INC	674	593	4,284,781	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	674 1	593 1	4,284,781 479,038 — <1.1%>
(中国オフショア)			千香港・オフショア人民元	
BERRY GENOMICS CO LTD-A	42,488	29,699	43,569	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
BGI GENOMICS CO LTD-A	6,527	5,093	25,874	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	49,015 2	34,792 2	69,443 1,424,764 — <3.4%>
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	314,062 52	331,849 46	— 41,666,996 — <99.4%>

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 邦貨換算金額欄の<>内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2023年12月7日現在)

項目	当期末	
	評価額	比率
株式	千円 41,666,996	% 98.8
コール・ローン等、その他	510,342	1.2
投資信託財産総額	42,177,338	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) 当期末における外貨建純資産(41,992,600千円)の投資信託財産総額(42,177,338千円)に対する比率は99.6%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1アメリカドル=147.17円、1ユーロ=158.49円、1イギリスポンド=184.86円、1スイスフラン=168.21円、1オーストラリアドル=96.46円、1香港ドル=18.84円、1韓国ウォン=0.1118円、1香港・オフショア人民元=20.5169円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年12月7日現在)

項 目	当 期 末	円
(A) 資産	42,280,340,297	
コール・ローン等	297,098,567	
株式(評価額)	41,666,996,854	
未収入金	308,984,062	
未収配当金	7,260,814	
(B) 負債	381,228,853	
未払金	263,586,492	
未払解約金	117,642,358	
未払利息	3	
(C) 純資産総額(A-B)	41,899,111,444	
元本	37,598,506,457	
次期繰越損益金	4,300,604,987	
(D) 受益権総口数	37,598,506,457口	
1万口当たり基準価額(C/D)	11,144円	

(注) 当ファンドの期首元本額は40,960,688,980円、期中追加設定元本額は3,707,694,652円、期中一部解約元本額は7,069,877,175円です。

(注) 2023年12月7日現在の元本の内訳は以下の通りです。

- ・グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型) 25,574,510,663円
- ・Nikkoam FOFs用グローバル全生物ゲノム株式ファンド(適格機関投資家向け) 5,061,169,748円
- ・グローバル全生物ゲノム株式ファンド(年2回決算型) 4,589,005,870円
- ・グローバル・イノベーション株式ファンド(適格機関投資家向け) 2,373,820,176円

(注) 1口当たり純資産額は1.1144円です。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○お知らせ

約款変更について

2022年12月8日から2023年12月7日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

- 当ファンドについて、新NISA制度における成長投資枠の要件に適合させるため、当該ファンドにて行なうデリバティブ取引および外国為替予約取引の利用目的を明確化すべく、2023年9月8日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。(付表、第19条、第20条、第21条、第26条)

○損益の状況 (2022年12月8日～2023年12月7日)

項 目	当 期	円
(A) 配当等収益	73,347,230	
受取配当金	73,393,650	
受取利息	49	
支払利息	△ 46,469	
(B) 有価証券売買損益	△ 387,015,387	
売買益	10,030,630,462	
売買損	△10,417,645,849	
(C) 保管費用等	△ 11,847,908	
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 325,516,065	
(E) 前期繰越損益金	4,781,066,989	
(F) 追加信託差損益金	500,836,598	
(G) 解約差損益金	△ 655,782,535	
(H) 計(D+E+F+G)	4,300,604,987	
次期繰越損益金(H)	4,300,604,987	

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。